環境経営レポート

2023年度版

《対象活動期間2023年2月～2024年1月》

岡崎技研株式会社

発行日：2024年3月31日

目次

	ページ
1.取組対象組織の明確化	1
1） 組織概要に関する情報	1
2） 許可の内容・許可一覧	1
3） 施設等の概要	2
4） 産業廃棄物の中間処理方法・処理能力	2
−①売上高	2
−②受託した産業廃棄物の総処理量	2
5） 処理フロー	3
6） 保有施設と許可品目	4,5
2.対象範囲	6
3.環境組織	6
1)推進組織	
2)役割責任	
4.環境経営方針	7
5.環境経営目標	
Ⅰ基準値の設定	8
Ⅱ環境経営目標の設定	9
6.環境経営計画（目標は2023年度到着値）	10
7.環境経営目標の実績	11
8.環境経営計画の取組結果とその評価	12,13
9.環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	14
10.代表者による全体評価と見直しの結果	15

1.取組対象組織の明確化

1）組織概要に関する情報

1.事業所名	岡崎技研株式会社	
2.代表者名	天野　晃明	
3.所在地	本社・工場	〒444-2134 愛知県岡崎市大樹寺一丁目12番地3 （1,950.57㎡） TEL：0564-87-3922　FAX：0564-87-3920 HP：http://www.okazakigiken.co.jp/
4.環境管理責任者	天野　晃明 連絡先 （連絡担当者：経理課　柴田真理）	TEL：0564-87-3922　FAX：0564-87-3920 E-mail：amano@okazakigiken.co.jp
5.資本金	1,000 万円	
6.創業	1973年6月7日	
7.設立	1973年6月7日	
8.事業内容	産業廃棄物収集運搬業・処分業（中間処理） 特別管理産業廃棄物収集運搬業・処分業（中間処理）	
9.従業員数	8名(2024年1月 現在)	

2)許可内容・許可一覧

種類	地区	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日
産業廃棄物収集運搬業	愛知県	第02300004750号	2020年3月16日	2025年3月15日
	岐阜県	02100004750	2021年12月18日	2026年12月17日
	三重県	第02400004750号	2020年3月10日	2025年3月9日
	京都市	06501004750	2020年7月4日	2025年7月3日
	滋賀県	第02501004750号	2020年4月24日	2025年4月23日
	静岡県	第02201004750号	2022年12月9日	2027年12月8日
特別管理産業廃棄物収集運搬業	愛知県	第02350004750号	2023年8月17日	2028年8月16日
	岐阜県	02150004750	2023年7月1日	2028年6月30日
	三重県	第02450004750号	2020年3月6日	2025年3月5日
	京都府	02650004750	2022年10月18日	2027年10月17日
	滋賀県	第02551004750号	2020年4月24日	2025年4月23日
	静岡県	第02251004750号	2022年12月9日	2027年12月8日
産業廃棄物処分業	岡崎市	第10520004750号	2020年3月17日	2025年3月15日
特別管理産業廃棄物処分業	岡崎市	第10570004750号	2023年10月2日	2028年9月7日

3) 施設等の概要
中間処分場

・ 脱水施設　　（2施設）
　(1)設置場所　　岡崎市大樹寺一丁目12番3
　(2)設置年月日　　2002年11月18日
　(3)処理品目　　汚泥

・ 油水分離施設　　（1施設）
　(1)設置場所　　岡崎市大樹寺一丁目12番4
　(2)設置年月日　　2002年11月18日
　(3)処理品目　　廃油

・ 中和施設　　（4施設）
　(1)設置場所　　同　上
　(2)設置年月日　　2002年11月18日
　(3)処理品目　　廃酸・廃アルカリ・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ

・ 還元施設　　（1施設）
　(1)設置場所　　同　上
　(2)設置年月日　　2002年11月18日
　(3)処理品目　　特定有害廃酸・特定有害廃アルカリ
　　（ともに六価クロムを含むもの）

・凝集沈殿施設　　（1施設）
　(1)設置場所　　同　上
　(2)設置年月日　　2002年11月18日
　(3)処理品目　　特定有害廃酸・特定有害廃アルカリ
　　（ともに鉛を含むもの）

※岡崎市大樹寺一丁目12番3と4は、同一敷地内にあります。

4)産業廃棄物の中間処理方法･処理能力

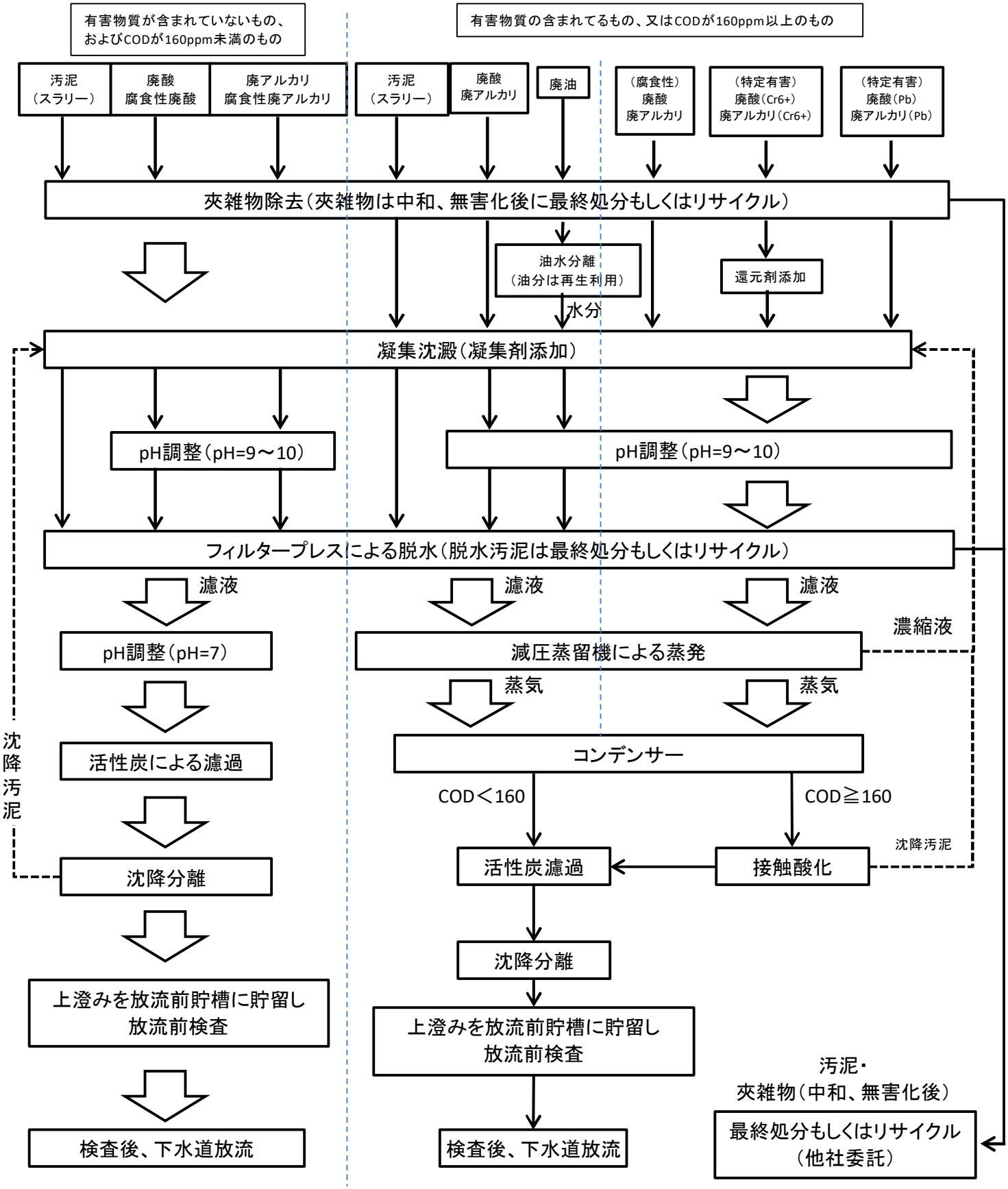
廃棄物名称		脱水	中和	油水分離	還元	凝集沈殿
汚泥		11.36㎥／日 13.52㎥／日				
廃油				8㎥／日		
廃酸			10.88㎥／日			
廃アルカリ			11.44㎥／日			
腐食性廃酸			10.32㎥／日			
腐食性廃アルカリ			8.8㎥／日			
特定有害廃酸	六価クロムを含むもの				7.48㎥／日	
特定有害廃アルカリ	六価クロムを含むもの				7.48㎥／日	
特定有害廃酸	鉛を含むもの					7.5㎥／日
特定有害廃アルカリ	鉛を含むもの					7.5㎥／日

4)-① 売上高（2023年2月1日～2024年1月31日）
16,200万円

4)-② 受託した産業廃棄物の総処理量（2023年2月1日～2024年1月31日）
総収集運搬量：2,976.87t
（内訳　産業廃棄物1,303.27t、
　　特別管理産業廃棄物1,673.6t）

総中間処分量：3,189.01t
（内訳　産業廃棄物1,475.46t、
　　特別管理産業廃棄物1,713.55t）

5）廃液処理フローシート



6）保有設備と許可品目

①設備

種類及び名称	設備使用工程	能力	台数
減圧蒸留機	COD除去	20㎥/D	1基
蒸気ボイラ（A重油）		0.98Mpa	2基
蒸気ボイラ（都市ガス）		0.98Mpa	1基
クーリングタワー		（冷却能力）907kW	1基
接触酸化槽	BOD除去	滞留9日間	3基
脱水機	脱水	濾過面積33㎡	2台
同メンプランボンプ		吐出量60L/min	2台
ベルトコンベアー		巾700mm	2基
貯留タンク	保管	50㎥	2基
		8㎥	6基
		10㎥	4基
浮上油貯留タンク		2㎥	1基
石灰スラリー貯留タンク	薬品タンク	30㎥	各1基
塩酸タンク		5㎥	
硫酸バンドタンク		5㎥	
苛性ソーダタンク		5㎥	

②収集運搬車輌

種類及び名称	仕様	最大積載量	台数
11tスーパーモービル	SUS304タンク	9,570kg	各1台
4tスーパーモービル	SUS304タンク	2,600kg	
4tトランスモービル	Feタンク	3,100kg	
4tトランスモービル	内面テフロン加工	2,670kg	
4t耐酸ダンパー	内面ゴムライニング	2,800kg	
4tダンプ	荷台ー床面SUS304	3,700kg	

③場内使用車両

名称	能力	台数
バックホー	0.50㎥	各1台
フォークリフト	2,000kg	

④収集運搬業について

産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬業については、
下記の品目をそれぞれの処分場に搬入

（産業廃棄物）

種類	愛知県	三重県	静岡県	岐阜県
燃え殻	○	○		
汚泥	○	○	○	○
廃油	○	○	○	○
廃酸	○	○	○	○
廃アルカリ	○	○	○	○
廃プラスチック類	○	○		○
繊維くず	○			
ゴムくず	○			
金属くず	○	○		
ガラスくず・コンクリートくず	○	○		
及び陶磁器くず				
鉱さい	○			
がれき類	○			
ダスト類	○			

（特別管理産業廃棄物）

種類	愛知県	三重県	静岡県	岐阜県
引火性廃油	○	○		○
腐食性廃酸	○	○	○	○
腐食性廃アルカリ	○	○	○	○
特定有害ダスト類	○			
特定有害廃油	○			○
特定有害汚泥	○			○
特定有害廃酸	○		○	○
特定有害廃アルカリ	○	○	○	○
特定有害ばいじん				○

⑤処分業について

（産業廃棄物）

種類	愛知県	三重県	静岡県	岐阜県
汚泥	○			
廃酸	○			
廃アルカリ	○			
廃油	○			

（特別管理産業廃棄物）

種類	愛知県	三重県	静岡県	岐阜県
腐食性廃酸	○			
腐食性廃アルカリ	○			
特定有害廃酸 （鉛、六価クロム）	○			
特定有害廃アルカリ （鉛、六価クロム）	○			

2.対象範囲

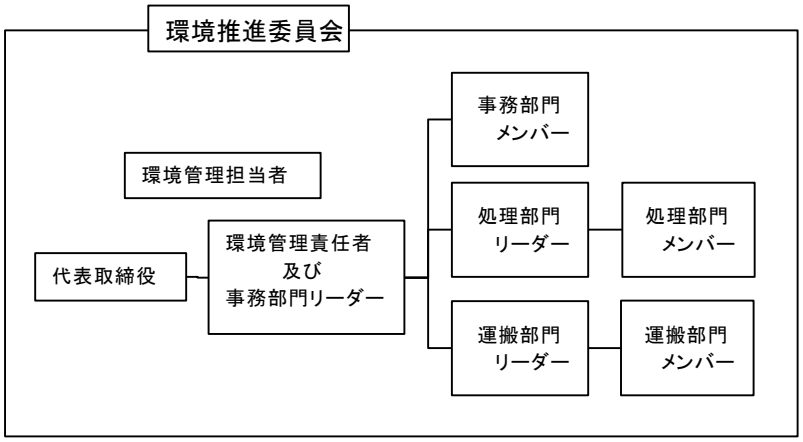
1)サイト　　本社・工場　　〒444-2134
愛知県岡崎市大樹寺一丁目12番地3
(1,950.57㎡)

2)事業内容　産業廃棄物収集運搬業・処分業(中間処理)
特別管理産業廃棄物収集運搬業・処分業(中間処理)

3)要員　　正規社員8名(うち取締役2名)

3.環境組織

1)推進組織　2024年1月1日現在



2)役割及び責任

役職	役割・責任・権限
代表取締役	・環境経営システムの総責任者 ・環境経営方針を定める ・環境経営資源の準備 ・環境管理責任者の任命 ・代表者による全体の評価と見直しの指示
環境管理責任者	・教育の実施・環境経営目標及び環境経営システムの承認 ・環境関連法規制の取りまとめ ・実施状況の確認 ・環境経営レポートの確認 ・環境活動の取組結果を確認、及び代表者への報告
各部門リーダー	・環境経営目標達成するための活動の推進・提案
各部門メンバー	・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動への参加

※環境管理担当者は以下の事務作業を担当する
・文書の作成及び管理
・システム運用上の事務管理
・環境経営計画実施の実施集計
・環境経営レポートの作成

4.岡崎技研株式会社
環境経営方針

基本理念

私たちは産業廃棄物の処理を通じて自主的、積極的に環境の保全に取組み、
環境経営の継続的改善を目指し、持続可能な生活環境の保全に寄与する事を
目的とします。

環境経営方針

1.関連する法規制を遵守して事業活動を行い、企業の社会的責任を果たします。

2.天然資源の使用を効率的に行い、二酸化炭素の排出量の削減を図ります。

3.水資源を大切にし、節水に努めます。

4.産業廃棄物処理に当たり、最終処分量割合を削減し、循環型社会の形成に
努めます。

5.グリーン購入を促進し、資源を有効利用します。

6.化学薬品の管理及び使用の削減に努めます。

7.社員全員の環境意識を高める為、教育や啓発活動を推進します。

改定日　2023/2/1

岡崎技研株式会社

代表取締役　天野 晃明

5.環境経営目標

Ⅰ基準値の設定

・基準は2017年10月～2018年9月の値、原単位はこの期間の中間処理量(3,388t)を使用

項　　目	基準年の実績	基準数値
電力使用量	186,425kWh	55.03kWh/t
燃料使用量(軽油)	24,139.58ℓ	7.13ℓ/t
燃料使用量(ガソリン)	2,077.53ℓ	0.61ℓ/t
燃料使用量（Ａ重油）	147,705.6ℓ	43.60ℓ/t
二酸化炭素排出量	556,580.34 kg-CO2	164.30 kg-CO2/t
水使用量	10,133.5㎥	2.99㎥/t
資源の管理・削減　※1	359,570kg	106.13kg/t
廃棄物排出量の削減	823.2t	0.243t/t
廃棄物のリサイクル化と管理(増加)　※2	483t	0.1425t/t

※1　PRTR法に該当する化学物質の使用は無いが、その他の化学物質の管理を目的に「その他の化学物質」として自主管理

※2　中間処理後の汚泥をセメント材料及び路盤材、廃油の浮上油を再生燃料にしています。

Ⅱ　環境経営目標の設定

			原単位	基準数値	年次別目標		
					第10年次（2022年度）	第11年次（2023年度）	第12年次（2024年度）
Ⅰ　二酸化炭素排出量の削減							
	電力使用量の削減			削減率	3.5%	3.5%	3.5%
			kWh/t	55.03	53.10	53.10	53.10
			kg-CO_2/t	20.86	20.12	20.12	20.12
	燃料使用量の削減	軽油		削減率	3.7%	3.7%	3.7%
			ℓ/t	7.13	6.87	6.87	6.87
			kg-CO_2/t	18.40	17.72	17.72	17.72
		ガソリン		削減率	2.2%	2.4%	2.4%
			ℓ/t	0.61	0.60	0.60	0.60
			kg-CO_2/t	1.42	1.39	1.39	1.39
		A重油		削減率	2.0%	2.0%	2.0%
			ℓ/t	43.60	42.73	42.73	42.73
			kg-CO_2/t	118.16	115.80	115.80	115.80
合計			kg-CO_2/t	164.30	158.55	158.55	158.55
Ⅱ	水使用量の削減		㎥/t	削減率	3.8%	3.8%	3.8%
				2.99	2.88	2.88	2.88
Ⅲ	資源の管理と削減		kg/t	削減率	2.3%	2.4%	2.4%
				106.13	103.69	103.58	103.58
Ⅳ	廃棄物排出量の削減		t/t	削減率	2.5%	2.6%	2.6%
				0.243	0.237	0.237	0.237
Ⅴ	廃棄物のリサイクル化と管理(増加)		t/t	増加率	2.2%	2.2%	2.2%
				0.1425	0.1456	0.1456	0.1456
Ⅵ	再資源化への取組（汚泥）		工程手順の徹底				

※二酸化炭素係数は、0.379kg-CO_2／kWhを使用しました。
※弊社の使用する化学物質は、PRTR物質は有りません。
　他の管理物質を使用していますのでこれを自主管理削減します。

※第10年次は2021年10月～2022年9月
※第11年次は2023年2月～2024年1月
※第12年次は2024年2月～2025年1月

6. 環境経営計画

※以下、削減目標には文頭に「基準値に対して」を付加

目標①：二酸化炭素排出量の削減

1）電力使用量を廃棄物処理量あたり（原単位）3.5%削減

a）毎月の電気使用量の把握

b）照明・冷暖房、場所の管理

c）冷暖房設定温度の管理（夏季27℃、冬季23℃）

d）空調設備点検（フィルター清掃）

2)化石燃料（軽油・ガソリン・A重油）を廃棄物処理量あたり、原単位にして3.7%・2.4%・2.0%削減

a）毎月の軽油・ガソリン及びA重油使用量の管理

b）エコドライブの実践

c）タイヤ空気圧等の車両整備・点検の励行

d）工程作業終了時停止の徹底

3)二酸化炭素総排出量を基準値に対し3.5%削減

目標②：水使用量を3.8%削減

1）毎月の水使用量の把握

2）工場内水道施設の点検

3）節水の意識付け

目標③：資源の管理・削減を廃棄物処理量あたり2.4%削減

1）毎月の買入量の管理

2）適正な保管量の管理

目標④：廃棄物排出量を廃棄物処理量あたり原単位にして2.6%削減

1）毎月の廃棄物排出量の把握

目標⑤：廃棄物のリサイクル化と管理を進めリサイクル率を原単位にして2.2%向上

1）毎月の廃棄物排出量の把握

目標⑥：汚泥の再資源化への取組

1）搬入物の処理手順を徹底する。

7. 環境経営目標の実績

運用期間は、2023年2月～2024年1月です。

取組項目		基準	目標	実績	実績値／目標値
Ⅰ. 二酸化炭素排出量の削減					
①電力使用量の削減	(kWh/t)	55.03	52.87	62.30	1.18
	(kg-CO2/t)	20.86	20.12	23.61	—
②燃料使用量の削減					
軽油使用量削減	(L/t)	7.13	6.86	6.86	1.00
	(kg-CO2/t)	18.40	17.72	17.70	—
③ガソリン使用量削減		0.61	0.60	0.29	0.48
	(kg-CO2/t)	1.42	1.39	0.67	—
④A重油使用量の削減	(L/t)	43.60	42.73	49.55	1.16
	(kg-CO2/t)	118.14	115.80	134.28	—
合計(kg-CO2/t)		164.30	158.55	176.27	1.11
二酸化炭素総排出量(kg-CO2)				565,525.92	
Ⅱ. 水使用量の削減		2.99	1.91	1.14	0.60
Ⅲ. 資源の管理と削減	(kg/t)	106.13	103.58	95.57	0.92
Ⅳ. 廃棄物排出量の削減	(t/t)	0.243	0.237	0.227	0.96
Ⅴ. 廃棄物リサイクル化と管理	(t/t)	0.1425	0.1456	0.1209	0.83
Ⅵ. 再資源化への取組(汚泥)		工程手順の徹底			

※実績評価は:100%以上→○　100%未満→×
※環境への負荷チェックリストで、二酸化炭素への換算は、中部電力の数値0.379kg-CO_2/kWhを使用してあります。
※2023年度
・中間処理量(受入時)3,189.01t・再資源化量(出荷時)1,595t
・使用量・排出量

電気	198,680kwh
軽油	21,891.72L
ガソリン	933L
A重油	157,999.7L
水	3,628.5㎥
資源	304,770kg
廃棄物	723,095kg
リサイクル	385,710kg

8. 環境経営計画の取組結果とその評価

今回の評価は、2023年2月から2024年1月までを活動期間としている。

＜全体評価＞

Ⅰ－①　電力使用量の削減について（未達）
盛夏にエアコンが故障し過負荷状態であった可能性が大きい
高効率のエアコンに買い換えたため改善が見込まれる

Ⅰ－②、③、④　燃料使用量の削減について（（軽油達成）・（ガソリン達成）・（A重油未達））
軽油：順調に削減できている、引き続き活動を行う
ガソリン：営業車の使用が減ったため
A重油：ボイラーの経年劣化による効率の低下が原因
代替燃料のボイラーの検討中

Ⅱ　水使用量の削減について（達成）
ポンプ修理・クーリングタワーの更新により地下水使用が
大きく減少した

Ⅲ・Ⅳ　資源の削減（達成）・廃棄物排出量の削減（達成）について
資源の削減：社員の資源管理意識の向上
廃棄物排出量の削減：薬剤の適量使用ができた

Ⅴ　廃棄物リサイクル化について（未達）
リサイクルを希望する顧客の減少が原因
顧客へのアピールを増強する

<次年度（2024年度）の取組内容>

※以下、削減目標には文頭に「基準値に対して」を付加

目標①　1)　電力使用量を廃棄物処理量あたり（原単位）3.5%削減

（対策）（1）毎月の電気使用量の把握

（2）冷暖房設定温度の管理（夏季27℃、冬季25℃）

（3）空調設備の点検（フィルター清掃）

（4）工場内設備の高効率化

2)　化石燃料を廃棄物処理量あたり軽油：3.7%、ガソリン：2.4%、A重油：2.0%削減

（対策）（1）毎月の軽油、ガソリン、A重油使用量の把握

（2）エコドライブの実施と社員への啓発活動

（3）タイヤの空気圧を適時管理

3)　二酸化炭素排出量を3.5%削減

目標②　水使用量を3.8%削減

（対策）（1）毎月の水使用量の把握

（2）工場内水道施設の点検（水漏れ等）

（3）従業員へ節水を意識付け

（4）クーリングタワーの適時清掃

目標③　資源の管理・削減を廃棄物処理量あたり原単位にして2.4%削減

（対策）（1）毎月の購入量の管理

（2）適正な保管量の管理

（3）リサイクル率の向上

目標④　廃棄物排出量を廃棄物処理量あたり（原単位）2.6%削減

（対策）（1）毎月の廃棄物排出量を把握

目標⑤　廃棄物のリサイクル化と管理を進め、リサイクル率を2.2%向上

（対策）（1）毎月の廃棄物排出量の把握

（2）廃棄物の分別の徹底

9. 環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無

(1)適用となる主な環境関連法規

廃棄物処理法

廃棄物の適正な処理の促進に関する条例(愛知県条例)

岡崎市との環境と保全に関する協定

毒物及び劇物取締法

自動車リサイクル法

国等による環境物品等の調達の推進等に関する法

フロン排出抑制法

県民の生活環境の保全等に関する条例

特定家庭用機器再商品化法

(家電リサイクル法)

資源の有効な利用の促進に関する法律

自動車Nox・PM法、Nox・PM法施行令

下水道法

(2)違反、訴訟の有無

上記環境関連法については、遵守チェック表により、確実に法規を遵守していることを確認

また過去3年間、関係各機関から特に指摘・指導はなく、訴訟も1件も無し

10. 代表者による全体評価

①電気使用量が悪化している。
エアコンの不調により過負荷状態であった可能性がある為、
交換した後の成果を継続して確認すること

②軽油、ガソリンの使用量の削減達成
車両の高効率運転が功を奏した、継続すること。

③A重油使用量の増加に関して要因を探ること

④資源の削減、廃棄物排出量の削減は順調、継続的な活動を続けること。

⑤環境経営方針、環境経営目標・環境経営計画、実施体制の変更の必要性はない。

環境負荷を低くする経営は社員が積極的に取り組まなければ達成できない。
昨年度に引き続き環境負荷低減に対する活動の比重を増やしていく。
ただし、昨年度同様、比重を増やしていく原則は以下
・本業に支障が出ないこと
・活動がストレスにならず各々が負担だと感じないこと
・営業時間内で完結しない活動はしない（時間外労働はしない）
・従業員からの提案は極力採用し、従業員から発信しやすいよう導く

代表者から指示を受けた環境管理責任者からのトップダウンでの活動がメインであるが、
環境管理責任者は自ら積極的に活動を行い、リーダーとメンバーにも提案の問いかけを実施、
目標は日常から自然発生的に生じる環境負荷低減活動の構築である。